

(別紙様式1) **令和7年度 学校評価(自己評価)及び学校関係者評価報告**

学校名 [京丹後市立峰山小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点 (短期経営目標)	
峰山学園教育目標 ふるさとを愛し、多様な人とつながりながら学び、探究し続けるこども育成 目指す子ども像 ① 主体的に学び続ける子ども ② 人を思いやり仲間と共に高め合える子ども ③ 粘り強く挑戦し続ける子ども		○タブレット端末を児童が主体的に活用し、学力の向上や児童主体の学び、探究的な学びについて、一定の成果が見られた。 △学んだスキルを生かしたり、系統性や連続性のある探究的な学びをしたりすることについてはさらに実践研究を進める必要がある。 △児童が主体的に家庭学習に取り組むことについて課題がある。児童自らが学習の主体者となり自己調整しながら学んでいける力をつけられるよう指導や支援を行う。		① 全ての児童に心理的安全性が確保され、安心して安全に過ごせる学校づくりを進める。【相談・心理的安全性・言葉・人権・命・ありたい自分】 ② 全ての児童が目標や見とおしをもって取り組める取組や活動を行う。【目標・見通し・夢・自己肯定感・自己有用感】 ③ 全ての児童が考えて行動する力を伸ばせる取組や活動を行う。【自己選択・自己決定・行程・探究・アウトプット・粘り強さ】	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)	学校関係者評価	
学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の諸	教育課程 学習指導 児童自らが主体的に学び、目標や見通しをもって探究的な学べる授業づくりを行う。	○ 教務主任、指導研究部主任を中心として、探究的な学びの授業研究、理論研修を実践検証しながら推進する。 ○ 外部の研修等も積極的に活用する。 ○ 峰山学園秋季研修会(本校公開)や授業参観、授業公開等を節目に積極的に公開し合う。	○「探究的な学び」の授業づくりの在り方について、学園や学校の目標をもとにして研究方針等の共通理解を図り研究方法等も見直した。子ども主体の学びや指導観・授業観の転換を図ることができ、学園秋季研修会でも研究の成果を公開することができた。 △今年度効果のあった授業改善の取組の継続や発展、さらには、学園でも課題のある家庭学習の充実につなげ、児童の学力向上につなげる必要がある。	・今後も本校ならではの特色を大事にした教育を進めてもらいたい。家庭との連携で、親も一緒に学ぶような機会があれば一層よいと思う。 ・子ども主体の学びの中で学び方も多様になるが、例えばいつも一人で学んでいる子どもがいなか、いつも同じグループで活動していないかなど配慮が必要ではないか。	

生徒指導	児童の心理的安全性を確保し、不登校・不適應等の未然防止に取り組む。いじめ事象の未然防止を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日々の情報共有を徹底し、未然防止・早期発見・早期の適切な対応を徹底する。 ○ S C、S S Wの活用、児童養護施設や関係機関との連携を適切に行う。 ○ 児童自らが考えたり見通しをもって取り組んだりする取組を工夫して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめや不登校の課題については、管理職や児童支援加配を中心とした日常的な情報共有と早期の支援、手立て等により、一定改善を図ることができた。 ○特別活動の取組や普通の授業づくりの中で、児童が思考したり、自ら選択したり判断したりする場面を大事にしてきた。 △個別には、課題の大きい児童、家庭のケースも複数あり、今後も継続した取組が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自分の興味関心(好きなこと)などを自由に言えるようにしてほしい。失敗してもよい雰囲気や経験が大事ではないか。 ・学校アンケート結果から、1～2学期で数値が落ちている項目がある。全体的な傾向だけでなく、より個にも目を向けて対応してもらいたい。
健康・安全	児童の安全安心を全ての教育活動の最重要課題として全教職員で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登下校の安全確保と事故防止について、家庭や地域の安全ボランティア組織と連携した取組を進める。 ○ 日常の安全について、管理職や養護教諭をセンターとして情報共有を徹底し、事故の未然防止、適切な対応、再発防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日々の学校の状況や児童の様子を把握し情報共有をしっかりと図ることにより、事故やけが、トラブル等を未然に防ぐことを重視してきた。 ○登下校指導については、各家庭、地域安全ボランティア、関係機関と連携を図り、児童の安全な登下校を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの主体性も大事にしながら、気持ちやメンタル面の強さももってほしい。今の子どもは周囲から守られ過ぎの面もあるのではないか。 ・ニコニコカーの活用状況はどうか。有効に活用してもらいたい。
危機管理	管理職が中心となって危機意識を高く持ち、未然防止、早期で適切な対応、再発防止に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な事象・事例に関心を高く持ち、日々の児童の様子を観察や気づきの共有、訓練や研修をとおして有事の際等のシミュレーションを繰り返し行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○できるだけタイムリーに事象を取り上げ、会議や研修等で教職員の危機管理意識を高められるようにした。とりわけ、今年度は、教職員の性的な事象については繰り返し注意喚起をした。また、他校の事例等から、対応等についてS Cから助言を受ける機会も設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身も、危機意識や察知力がもてるようにしてもらいたい。 ・大雪の際は通学路の安全確保のため、区長会にも連絡して除雪の協力を依頼してはどうか。

<p>特別支援教育</p>	<p>一人一人の児童の実態・課題に応じた支援を行い、将来の社会的な自立につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援学級や通級指導教室についての理解教育を、児童の実態に応じた具体的な内容で行う。 ○ 児童支援部をセンターとして、児童の丁寧なアセスメントに基づく児童の支援を組織的に行う。 ○ 保護者との面談や関係機関との連携をとおして共通理解を図り、日々の支援に生かす。 	<p>○年度当初に理解教育を行い、特別支援学級の児童や、通常の学級で特別な支援を必要とする児童について共通理解を図った。障害や特性は様々であるが、どの児童も学校や学級で安心感や居場所感がもてるように日常的に取り組んだ。</p> <p>△日常的に様々なケースへの対応がある中で、時には考えの違いであったり、対応が難しいケースがあったりした。教員間の不信をまねかないように、今後も情報共有や意思疎通が重要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性が認められることを大事に、中学校校へもつなげてほしい。
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 今年度、成果が確認できる授業づくりの取組について、確実に次年度へ申し送り、引継ぎを行い、継続、より発展した取組につなげていきたい。特に、学園でも課題のある家庭学習の充実について、取組を充実させていきたい。 ② 課題のある児童、学級等、対応が必要な家庭やケースについて、今年度の状況を整理し教職員で共通理解を図っておく。その上で、次年度新体制により再度、共通確認をし、丁寧な一致した指導や支援につなげる。いじめや不登校等、重いケースにつながらないよう、未然防止の観点を大事にする。 ③ 「一人一人の児童の社会的な自立」という大きな目的がぶれないようにし、継続して、児童の主體的・自主的・自律的な活動をより一層進める中で、心理的安全性を高め、自ら考え判断し、協働して問題を解決する力や自治の力を高める。 ④ 一人一人の児童や家庭のニーズに寄り添い、適切で効果的・継続的・計画的な指導・支援を、特別支援教育コーディネーターや児童支援加配を中心として、支援チーム体制を構築し丁寧に着実に対応する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 特別授業はこれまでの経過も大事にしながらできる形で継続してもらいたい。 ・講堂棟の今後の活用について、現状どういう状況か。 ・新しい学習端末となり、今後はAI等の一層の活用も予想される。望ましい使い方をしっかり指導してもらいたい。